

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年1月16日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676100193
法人名	医療法人 松城会
事業所名	グループホーム「ゆうゆう」
所在地	鹿児島県霧島市隼人町姫城一丁目276番地 (電話) 0995-44-618
自己評価作成日	平成25年11月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4676100193&SVC=0001096&OC=01
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム「ゆうゆう」は、日当山温泉郷の閑静な住宅街の一角にあり、温泉が楽しめる。医療法人(隼人温泉病院)が運営し、入居者の日常の健康管理や医師・看護師による往診、救急時対応などが充実している。日々の出来事を忘れ、明日への希望が持たないで生活を送っている入居者が多くなか、入居者にとってはその日その時が真剣勝負であり、職員はその日一日を自分らしく精一杯生きられるように全精力を傾けて支援している。また、入居者の意欲や残存(潜在)能力を奪ったり、自主性(主体性)を阻害する過剰介護にならないように配慮しながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

霧島市は、県本土の中央部に位置し、北部は国立公園である風光明媚で雄大な霧島連山を有している。当事業所は、天降川、日当山温泉に隣接する市街地にあり、幹線道路も付近にあることから利便性も良く近隣に大型スーパーや学校、運動公園などある。ホームは、医療法人(隼人温泉病院)が運営し、老人保健施設なども併設している。年々、認知症高齢者も重度化してきており本人の主体性・自発性は乏しくなる一方である。しかし、職場体験や実習生の受け入れなど積極的に起こさない認知症高齢者を取り巻く生活環境や介護の状況を体験していただいている。また、介護の実情を知り認知症高齢者が家庭的雰囲気です人数による介護が受けられる地域に密着した事業所運営をしていることを自治会を通じて地域に広報活動し、啓発に努めている。ホームは2ユニットであり、地域交流、イベントなどで1号館、2号館双方も交流をしている。また、毎月1回発行の『ゆうゆう便り』には、入居者の介護の状況(外出先の様子や誕生会、行事の様子、来訪者のこと)や、運営推進会議でのやりとりなど毎回話題は満載で、写真もふんだんに活用しているので入居者の表情も垣間見える。地域の方には回覧版を利用し、他県に居住する家族にも送付して安心を届けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	管理者は、理念に基づいた運営を実践するために、人材育成や職員の和(協調)を心がけながら、利用者の生活を支援する意識と対応について、仕事と業務を使い分けた取り組みを行なっている。職員は、入居者が入居に至った経緯や背景、要因や諸事情等に配慮しながら、“その人らしさ”とは何か?を最優先に考えながら対応している。	事業所内には、理念が掲示しており、「主体性と個性の尊重・安らぎと自信を感じる生活・地域で健やかに暮らせる環境・家族の絆を大切に交流」を管理者を始め職員全員が共通認識し、職員会議でさらに意識づけしている。特に新人職員の教育などには力を入れているが、理念の見直しも定期的には実施している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進委員会をきっかけに自治会に入会し、回覧板による機関紙の配布や自治会の行事などに参加している。しかし、入居者のほとんどが姫城地域外のため?地域への関心が薄いと感じる。地域密着型事業所として、地域だけでなく近隣に暮らす高齢者と関わる(交流する)のが理想ではあるが、入居者は自分の生活が精一杯で、職員も業務に追われ、地域に目を向ける余裕がない現状もある。	地域との関係性が希薄なことと認知症が重度化してきていることから以前に比べて外出や屋外活動は減ってきている。しかし、サロンやバザーなどの催し、お茶会を通じて交流したり、足湯に浸かり会話するなど、散歩や買い物外出を通じて地域交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	入居者のほとんどが自立した生活を送れないため、24時間365日の支援が必要で、職員も限られた人員の中で健康・安全管理や日常生活全般の介護に追われる毎日、近隣にお住まいの高齢者にまで気が回らない現状がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、多岐にわたる広い視野で議題を設け、取り組みについての検証・評価、議論をしながら、サービスの質の向上に努めている。ただし、委員のみなさんは地域の代表としての立場ではなく、個人レベルの主観や発言、事業所の報告会的な場面も多く、根本的な論議に至らない場合もある。	会議は2カ月に1回定期的に開催されており、民生委員、住民代表、地域包括職員、行政職員、他グループホーム管理者、運営推進委員など毎回十数名の参加メンバーにより、運営や活動のあり方を含めた事業所の課題や様々な問題を議題に取り上げ、地域密着型サービスの目指す住み慣れた地域での生活の実現に向けて意見交換しサービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者を中心に霧島市内のグループホーム・小規模多機能ホーム・認知症デイサービスによる『霧島市地域密着型サービス事業者連合会』や『始良伊佐認知症グループホーム協議会』を組織し、行政や地域包括支援センターと協働・連携して認知症や地域密着型サービスの研修、徘徊SOSネットワークづくり、徘徊模擬訓練、認知症サポーター養成講座、ホームページの運営（情報提供）など、様々な活動と取り組みを行っている。	「霧島市地域密着型サービス事業者連合会」「始良伊佐地区認知症グループホーム協議会」などまた、行政や地域包括支援センターと協働・連携して、徘徊SOSネットワーク作り、徘徊模擬訓練認知症サポーター養成講座などの各種研修会、情報提供や認知症についての理解と啓発活動のためホームページの運営、機関誌「ゆうゆう便り」を地域にも配布するなど幅広く活動している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	個人の意思を尊重しながら、ご本人の主体的に活動を支援しており、その行動が人命を脅かす危険な行為でない限り、言動を抑制しないように心がけている。	契約時、重要事項説明書などで原則身体拘束はしない方針であることを利用者・家族には説明している。玄関は、常時開放しているが安全確保のための工夫もされ職員には、事業所内研修や運営委員会、身体拘束廃止委員会などで倫理や個人の尊厳についても含めて研修している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	教育研修委員会を中心に虐待や身体拘束などの人権擁護に関する研修や勉強会を開催し、自分たちの日常の言動を検証しながら振り返り、人権を尊重した介護や生活支援を心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	近年、単身（身寄りがいない）、家族と疎遠の入居者が増えていると感じる。今後、人権や財産管理などの権利擁護、生活保護などが必要になった場合に備えた学習や予備知識は必要だと思うが、現在、こうした状況や事例がないため、積極的な理解と学習には至っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者は、利用契約の際に重要事項説明書で分かりやすく説明しているほか、介護保険の改定や変更などに際しては、家族案内の文書を添えて説明している。なお、金銭や運営に係るものについては、同意を得るなどの対応を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	親しい間柄にあっても胸の内を明かさない入居者・家族もおられ、それを職員が察してあげられる“気遣い”や環境(雰囲気)づくりを大切にしながら、不満や苦情にならないように努めている。特に入居者は自分の意に反した共同生活(集団生活)を強いられている方が多く、不平・不満がない人はいないと思う。職員の力で解決できることは努めて対応したい。	事業所は、利用者や家族などの意見や要望を運営に反映させるため「意見箱」を設置してはいるが、利用はない。家族が、県外だったりキーパーソンが孫、ひ孫の代になり本人の介護について無関心だったりする。面会のある家族には直接意見を聞き取るが要望はあまりない。家族との接触の機会を図るため県外を除き毎月の支払いは現金払いにしてみたい要望等の把握に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月一回の職員会議を通して、管理者は職員の意見に耳を傾け、職場を盛り立てる雰囲気づくりに配慮しながら、入居者や職場への思い入れが熱意として伝わってくる。職員から出された意見や要望は、管理者の判断あるいは代表者以上に申し、最善・最良の対応・対策を講じている。	よりよい事業所運営や日々の業務内容の見直しは、毎月の職員会議で協議している。必要に応じて個人面談し、個々の意見も拝聴しながら代表者や管理者が検討し、業務内容の見直しやサービスの質の向上に努められるよう改善方法を検討実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人として、事務長ならびに管理者が職員の能力や実績、勤務態度などを職員考課で評価しているほか、人員配置や職場環境、雇用条件などに理解を示し、グループホームとしての運営や活動の実績においても一定の評価を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>段階や経験に応じたものではないが、法人ならびにグループホームの教育研修委員会を中心とする勉強会を年2～3回開催したり、外部研修に参加する機会がある。運営者はこうした研修に理解を示し、人材育成・教育・スキルアップへの環境は整っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、ホームが加盟するグループホーム協議会や地域密着型サービス事業者連合会などの発足に尽力した人脈を通じて、各種研修会や講演会に参画し、他事業所との連携や親睦・交流を積極的に図っている。また、近隣のグループホームとの研修や交流を通して、運営や業務などの様々な問題や課題について話し合う機会を設けていると感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>緊急の入居相談(申込)が中心で、入居前から本人と関わる機会(時間)が少なく、信頼関係を構築するのは難しいと感じる。本人の意思で入居する利用者がほとんどいない中、環境に慣れるまでは本人・家族・職員の葛藤があり、そんな現状のなかで日々不安解消や問題解決に努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>緊急の入居相談(申込)が中心で、入居前から家族と関わる機会(時間)はほとんどなく、初期の段階から家族との信頼関係を構築するのは極めて難しいと感じる。入居理由が家族の不安解消や介護負担軽減が主で、入居によって家族の不安や負担はある程度解消できるが、本人は逆に不安になるケースが多く、本人の思いを代弁する形で家族に支援と協力をお願いしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談を受けたとき、入居は最後の手段にしてほしいとお願いしている。住み慣れた家や地域で、その人に合ったサービスを提供できる環境があると思うので、在宅サービスを中心に案内(紹介)している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護する側とされる側の関係ではなく、共に支え合って生きる同志であると考え、側面からの支援に心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム任せにせず、出来るだけ生活する場面や介護に関わっていただく意味で、家族と一緒に過す時間（外食・外出・外泊を含めて）をつくってもらえるように働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの友人や知人に入居されたことを伝え、訪問していただけるよう働きかけているが、ここに来た（入居した）時点で既に人や地域との関係が途切れている場合が多く、一部の利用者を除いて継続した支援には至っていない。	認知症が重度化しているため、本人の意思表質が困難な利用者が多い。地域の方の来訪者も少ないので、散歩や買い物、サロンや行事などを通じて関係性が途切れないようにしている。また、近隣地域の家庭を職員が訪問する時は利用者と一緒に訪問したり、墓参り、故郷訪問を計画して出かけていく場面を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、一人ひとりの個性を大切にしながら、利用者同士が関わり合う（支え合う）場面づくりに努めているが、認知症の程度や性格等によって無関心だったり、自分のことで精一杯の入居者も多く、関係性の構築にはかなりの時間を要す。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全ての利用者ではないが、ホームの催しや機関紙の配布などを通して交流があり、時々足を運んでいただくお付き合いが続いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活させてもらっている状態から、自ら生活していると感じられるような支援をしていきたいが、生活意欲や能力が伴わず、指示待ち症候群？の入居者が多い。日々の生活で、ふとした言葉・仕草・表情が変化する場面を見逃さない、感じ取る「気付き」を大切にしている。	認知機能や心身の機能低下などにより依存型（受身）の生活を送る利用者が多く、管理者は、職員に本人の発する言葉や表情の中に本人の思いや希望が隠されていると常日頃からアドバイスし、記録のつけ方にも工夫するよう指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族面談でおおまかな情報を入手し、家族や友人などの面会・訪問時に細かな情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さり気ない言動を観察しながら、職員間で情報交換しながら出来ることと出来ないことの見極めを行うように心がけ、出来ること（昔とった杵柄）を生活に生かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや日常会話の中で意見交換をしながら、サービス担当者会議などで職員の意見や見解をまとめ、実践しながら利用者のQOL（生活の質）の向上に努めている。	平成12年から使用してきた介護計画書のフォームを来年度「ライフサポートプラン様式」に変更することに伴い出前研修会を開催している。本人の思いを代弁して、家族、関係者と本人が望むプランを目指し、本人の思いが形として見えるサービスの提供を目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、日常生活の言動を詳細に記録している。また職員全員が情報を共有できるように『伝言ノート』を備えて目を通してしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療法人としての特性を活かし、病院や訪問看護が協力医療機関としての受診・往診による健康管理や救急対応、介護老人保健施設が交流行事の支援を担っており、利用者の安心に繋がっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防などは、安心・安全な生活を営む上で必要不可欠であり、徘徊や行方不明の際の徘徊SOSネットワークによる捜索要請のための情報提供、防火・防災訓練の指導などで連携して行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人としての特性を活かし、病院（協力医療機関）との医療連携体制が整っている。病院にない診療科目（歯科・耳鼻科・眼科・皮膚科など）の受診については、基本的に家族の希望先や以前のかかりつけ医との関わりを大切にしているほか、看護師が受診に付き添って対応している。	母体は協力医療機関でもあり、かかりつけ医でもあるため、治療の必要性が高い場合は、外来入院や夜間一時避難対応するなど医療との連携体制が整備されている。週1回、往診を受けられることが、本人、家族の安心感にも繋がっている。また他科受診は、なるべく家族に付き添いを依頼するが必要に応じて職員が同行するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	外来や訪問看護ステーションの看護師に相談・指導を受けている、病院と訪問看護ステーションが同敷地内にあるので、すぐに対応できるメリットもあり、利用者(家族を含む)の安心に繋がっている。入居者が病院と勘違いするくらい、ホームに医師や看護師が往診して、細やかな問診・バイタルチェック・服薬処方が行われており、入居者が健康で安心して生活できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院や受診・救急搬送先を併設病院や地域連携室が紹介・受け入れの調整を支援するほか、退院後も訪問看護ステーションの看護師を派遣したり、通院リハビリなどが支援するため、早期退院・回復が可能である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきりや看取り介護、終末期医療の可能性が予測される入居者に対しては、本人・家族の意向を確認し、理解と協力が得られる場合は、医師や看護師も交えた具体的な対応を話し合い、前向きに検討しながら取り組んでいる。	契約時に、「重要事項説明書」にて説明しているが、実際には具体的に看取りの時期が到来した時、改めて家族に看取りの意思確認をしている。現在、1名看取りケア支援中であるが、家族も協力的で本人がホームで最期を迎えるため医師、関係職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置セットやAED(自動体外式除細動器)、吸引器等を常備している。また、こうした機器を使った訓練や講習会を法人として実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>事業所主体の防火訓練は行っているが、法人を含む地域と連携した防災訓練は行っていない。過去に水害（8・1水害）に遭っているため、地域と連携した訓練や具体的な防災対策について地域住民との話し合いが必要と感じるが、行政主導の防災事業計画とハザードマップの配布にとどまっており、ホームとしての具体的な訓練・対策も行っていないのが現状である。</p>	<p>防災訓練は年2回夜間を想定した訓練を消防の立会いの下、自主的に実施している。地域住民の協力体制や防災訓練については課題が残るが行政主導で防災計画とハザードマップを配布し、災害時対応について啓発活動にも取り組んでいる。また、過去に離設の事例があったため、徘徊模擬訓練に事業所主体で取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目の離せない入居者の対応は、プライバシーよりリスクを重視している。ただし、入浴や排泄など、誰もが他人に介護させることに抵抗がある介助については、羞恥心に配慮しながら対応している。	利用者の日常生活は、本人の主体性にまかせており一人ひとりの人格を尊重したケアの実践に努めている。入浴は、「温泉の準備ができましたよ。」と声かけし男性利用者にはいつも一番風呂を提供して入浴を楽しんでもらうなど配慮している。排泄は、羞恥心に配慮しさりげない声かけにて誘導するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせた対応を心がけている。人それぞれ生活習慣が違うことを理解し、介護者主導で生活させるのではなく、入居者自身が主体的に活動できるように心がけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の能力や意欲に応じて、本人のペースに合わせた対応に努めているが、入浴や一部入居者の排泄誘導は、職員(事業所側)が業務に即した曜日や時間で対応している日課・支援もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	外出や外泊の時は髪を梳いたり、服を選んだりして整容の支援を行っているが、普段は着慣れた服装で化粧をすることも少なく、特別な場合を除いて歯磨きや洗顔以外は鏡に向かう場面が少ないので、定期的に理・美容の訪問サービスを提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べることが何よりの楽しみなので、入居者の好き嫌いを把握し、旬の食材を使った味付けや彩りに配慮しているが、職員主体で食事を作るので、出されたものを黙々と無表情で食べている入居者が多く、作る楽しさや食べる喜びの感動には至っていないと感じる。介護度の重度化で上げ膳据え膳が日常的になっており、入居者のほとんどがそれを望んでいるのが現状である。	栄養士による定期的な嗜好調査、ヒアリングにて食事の希望など聞き取り、担当者会議時アセスメントを踏まえてスクリーニングの結果を介護計画書に反映させている。数名の利用者が下膳を手伝うなど協力が伺える。家族や職員から食材の差し入れがあったり、夏場はグリーンカーテンでゴーヤなど栽培し調理に活用している。また、スーパーの売り出し日には利用者を誘い一緒に買い物に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量や嗜好などを把握しているほか、夏季を中心に個別に水分摂取量をチェックして脱水予防に努めている。特に意思表示ができない入居者や摂取動作・嚥下・咀嚼などに問題を抱える入居者に対しては、細かな声かけや介助、食事形態の工夫をしながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔清拭(歯磨き・うがい・義歯の手入れ)の励行を指導(声かけ・見守り・介助)している。また、食事中に咀嚼や嚥下の具合を観察しながら食事形態や口腔状態に応じて口腔ケアを実施したり、訪問歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は自己管理能力や排泄パターンに応じて排泄用品の提供・服薬(緩下剤)・声かけ・誘導・排泄チェックを行っている。なるべく自然排泄を促し、おむつは使わないように心がけている。また、排泄の際の羞恥心にも配慮しながら介助している。	排泄のリズムや本人の能力(排泄機能)を考慮して、内服薬の調整、水分補給、牛乳やヨーグルト、繊維質摂取など内服薬に頼るのではなく自然な排便が促せるよう工夫している。日中は、部屋にポータブルトイレを置かないようにしているが、身体状況に応じ設置し排泄の自立を支援し、排泄のトレーニング後、布オムツに改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	緩下剤や整腸剤などの服薬による排便調整を行っているが、なるべく自然排便を促すために個別に牛乳やヨーグルト、繊維類(イモ類)の摂取、水分補給、運動(活動)を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴回数は臨機応変に対応できるが、入浴時間帯は日中に限られる。24時間温泉を使用できるが、朝や夜は対応できる職員を確保できないため、事業所の癒合で普段は実施していない。	浴室入口には「男風呂」の表札がかけられているが、入浴は男性が一番風呂という慣習からである。日当山温泉（みょうぼん温泉）を楽しむことが利用者の満足度に繋がっている。塩素濃度を入浴中2回測定、レジオネラ菌など対策している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	思い思いに居室や談話室のソファなどで昼寝をしたり、くつろげるよう、安静・安眠できる照明や生活音の調整、寝冷えや脱水を起こさないように空調管理にも配慮しているほか、睡眠導入剤や睡眠薬を安易に使用しない自然の眠りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類・効能・用法・用量は主治医の指示のもとで看護師が管理しており、介護職員にも周知したうえで服薬管理は厳重に行っている。また、日常の状態観察や経過記録をもとに医師への報告と家族への情報提供も行っている。なお、医師と看護師は、服薬量(処方)を必要最小限にとどめる努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力、関心、意欲、性格などに応じて日課(手伝い)や役割、趣味活動などへの支援を行っているが、職員が(支援・援助)してくれるという依存心や安心感もあるので、自主性や協調性、関心や興味、意欲や満足感(達成感)を引き出せないまま終わってしまう状況や場面も多い。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や買物を中心に屋外活動を実施しているが、入居者からの自発的な要望や要求は少なく、職員主導で実施することが多い。また、近年は高齢化と介護度の重度化で屋外活動も春と秋に限られ、頻度も少なくなりつつある。	家族と外出や外泊することはほとんどなく、利用者の体調や季節を考えて屋外活動を勧めているが頻度は減少傾向である。重度な要介護者が増え、要求や希望が少なくなっている。職員は五感を意識し近隣を散歩したり、買い物に出かけるなど支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭への執着や管理能力は一部の入居者に限られ、ほとんどは職員が購入したものを与えられている状況にある。買物しても支払いを職員の介助や代行することが多く、日常生活でお金を稼いだり、お金に困ることがない環境と買いたい（欲しい）ものがない無欲の状態で、金銭感覚や使う意識が薄れていると感じる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族への用事や近況報告、帰宅欲求への対応などを電話したり、絵手紙（はがき）や写真を添えたポストカードを作って支援している。遠方にお住まいの家族にたいへん喜ばれている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の食堂を兼ねた談話室は広い空間を確保しているが、人気がないと開放感より不安を感じるため、職員は花瓶に花を生けたり、絵や写真を飾って季節を演出して雰囲気づくりに配慮している。また、食堂の席が決まっていることで、入居者は自分の場所として認識し、そこに座ることで安心する人が多い。夜間は場所の認識や転倒しないよう照明に配慮している。</p>	<p>玄関からリビングへの動線上には、季節の花が生けてあったり壁には利用者の作品や写真が展示してあるなど明るく開放的な空間を演出しており、利用者はもちろんのこと来客の目も楽しませている。食卓以外にソファも設置してありのんびりとテレビ鑑賞できるよう配慮されている。また、夜間は場所を認識し転倒しないよう常夜灯（足元灯）を点けている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間（食堂・談話室）としての“集いの場”に対し、個人や少人数でくつろいだり、トラブルの際の避難・保護できる“隠れ家”的な空間、プライバシーの確保は自室（個室）以外にはない。どちらかといえば職員が入居者の所在確認や見守りがしやすい環境になっていると感じる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に家族に馴染みの物や思い出の品が生活環境や精神面に効果的に働くことを理解していただき、職員も日頃からその必要性と意義を十分理解して家族に働きかけている。しかし、現実には持ち込む負担や見た目を気にして、ホームの備え付けで済ませたり、新しく買い揃える家族が多い。</p>	<p>家族には、本人にとって家庭と同じように居心地のよい空間作りについて説明はしているが、実際には居室に設置された大容量のクローゼットに大抵の品物はしまうことが可能なため、普段使いのクリアボックス程度購入するくらいで用が足りている。各個室ごとに室温計があり、空調も含め温度管理されている。誤食がある利用者については、よけいな品を配置せず最低限度必要な物を配置してリスク管理している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーや手すりの設備と自助具で生活(活動)できるよう、その人の能力や意欲に合った使用を心がけている。また、個別に椅子やテーブルの高さ、肘かけの有無などに配慮しながら、椅子の使用を奨励し、車椅子の常用化防止に取り組んでいる。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない